



ありがとう、ロータリアン！ ⑪ 約束の実現に向けて



Founder & Director, First Penguin

ウオン ライオン
黄 麗容 さん

出身：マレーシア

奨学期間：2001 - 04

学校名：横浜国立大学大学院

世話クラブ：横浜泉RC

2010年夏、「カウンセラーの内海保さんがくも膜下出血で倒れて病院に搬送された」と、世話クラブから連絡を受けました。その2週間前、クラブ創立20周年記念式典で、元気な「お父さん（内海さん）」に会ったばかりなのに……。病院に駆けつけた時には意識不明で、祈りもむなしく、2週間後に亡くなってしまいました。お通夜には驚くほど大勢の人が参列し、それが、お父さんの人柄や生前の活動の証しのように感じました。その会場で展示された写真の数々を見ながら、私はお父さんとの大切な思い出を一つひとつ思い起こしていました。

発展途上国への教育支援という約束

私がお父さんと初めて会ったのは10年ほど前、米山奨学生のオリエンテーション会場でした。以来、世話クラブの例会、納涼会と、どれほどお世話になったことでしょう。一人暮らしの私を気遣って、お正月に自宅に招いてくれたり、「お母さん（夫人の千恵子さん）」から煮物の作り方を教わったりしました。卒業後も、ロータリーとの橋渡し役になってくれました。これからもずっと、お会いできると思っていたのに……。無念で、涙が止まりませんでした。そして、この時、お父さんとの最も大切な約束を思い出したのです。

2008年、カンボジアを訪れた内海夫妻は、路上で物売りをする子どもたちの姿に心を痛み、教育支援をしたいと言いました。私も長年、発展途上国での教育問題に強い関心があり、「これからは、途上国の教育支援を通じてご恩返しをします」と、お父さんに約束したのです。

告別式で最後のお別れをする時、私は「約束をきっと実現します」と、心の中で誓いました。

持続可能な支援をするために

当時は勤務していた会社を退職し、病気の母のため、帰国準備の最中でした。しかし、約束を果たすためには、専門知識と経験を身につけていかなければならないと思い、アジア太平洋地域を拠点とする企業のCSR（企業の社会的責任）コンサルタントとなり、アジア諸国と日本を往来しながら、発展途上国の課題と改善策について理解を深めました。また、ソーシャル・ビジネスや社会起業家のセミナーにも精力的に参加しました。

しかし、知識や経験を重ねるにつれ、たとえ発展途上国への教育支援・職業訓練を実施しても、その後の雇用問題をはじめ、貧困・保健衛生問題による負の連鎖はなくなり、寄付や援助だけでは持続可能な仕組みを作ることができない、と思うようになりました。

さまざまな問題への解決策を探ろうと昨年5月、約束の原点であるカンボジアへ現地視察に行きました。

世界遺産アンコールワットの周辺では、お父さんが言っていたように、学齢期の子どもたちが観光客相手に絵はがきなどを売っている光景を目にしました。その後、電気も水道もない村の小学校を視察し、支援団体の担当者との意見交換をしました。貧しい村で、はだしで通学する子どもがいる一方、首都プノンペンでは高級外車が走



日本でワークショップを開く黄さん（左奥）

突然訪れたカウンセラーとの別れ。悲しみに暮れる米山学友・^{ウォンライオン}黄麗容さんの脳裏に浮かんだのは、生前にカウンセラーと交わした約束、「発展途上国の教育支援を通じてご恩返しをします」というものでした。そのために彼女が選んだ道は、一人でも多くの人に途上国が抱えるさまざまな問題を考えてもらい、支援の手を増やすための人材育成。2012年10月、First Penguin を設立した黄さんは、約束の実現に向けて走り続けています。

り、まぶしいネオンに飾られたカジノには、客が絶えず出入りしていました。近年、アジア諸国に広がる収入格差の問題をここでも目にしたのです。

行動できる人材育成を目指して

こうした経験を積むうち、私は支援を必要とする人々への直接的な活動ではなく、富裕層や先進国の若者、企業を対象に体験・参加型の研修を行うべきでは、と考えるようになりました。一人ひとりの意識が変われば行動が変わり、発展途上国の問題に取り組む人が増えるでしょう。発展途上国の問題は決して他人事ではなく、グローバル社会を生きるうえで、自分自身に関わることだということ、より多くの人にわかってもらいたいのです。

この活動の一環として昨年10月1日、「すべての人々がグローバルな視点に立って、生きがいを感じながら、共栄する世界を実現する」というビジョンのもと、日本で個人の事業として^{ファーストペンギン}First Penguin を立ち上げました。この社名は、群れの先陣を切って最初に海へ飛び込む勇気の象徴、First Penguin から名付けたものです。

昨年12月には拠点を母国マレーシアに移し、株式会社としてスタート。マレーシアや日本の若者などへの研修を通じて、貧困地域に向け実際に自分ができることを考えてもらい、問題解決能力を身につけられるようにしたいと考えています。

これからの道のりは決して平たんではないと覚悟をしています。しかし、次の世代により良い世界を引き継ぐことができるよう、お父さんとの約束を胸に、私はこれからも勇気を持って行動し続けます。

内海千恵子さんから一言

黄ちゃんは今の日本人が忘れてかけている、人を思いやる深い心を持っていて、誰とでも、出会いを大切にします。奨学期間が終わっても、私たちや世話クラブをいつも気にかけてくれていました。主人が亡くなった時は大変ショックを受けていましたが、First Penguin を設立する前日には、その報告をしないと、主人の墓参りに来てくれました。亡き主人のやりたかったことが、黄ちゃんを通じて生き続けていることに心から感謝し、これからも応援していきたいと思います。



ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。
TEL: 03-3434-8681 FAX: 03-3578-8281
Eメール: mail@rotary-yoneyama.or.jp

米山学友たちの被災地支援 —— 南三陸町でネパール民族舞踊とカレーの炊き出し支援 ——

ネパール出身の米山学友で東京米山友愛ロータリークラブ(RC)副会長のギリ・ラムさん(1998-2000/室蘭RC)を中心に、11月3日、宮城県南三陸町の仮設住宅地で「ネパール民族舞踊とカレーの炊き出し支援」が実施されました。近隣の佐沼RCの協力を得、東京米山友愛RC会員10人をはじめ、米山学友や在日ネパール人協会会員など総勢33人が参加。ネパールの華やかな民族舞踊が集会場で披露され、屋外で500人分のカレーが振る舞われました。「今後も目に見える形で活動を続けていきたい」と、ギリ・ラムさん。ネパールの文化を楽しんだ住民からは「私たちもこれからは被災者ではなく、支援者になりたい」との言葉も聞かれました。



ネパールの民族舞踊を楽しむ参加者